

地区とのタウンミーティング 議事概要

日 時	令和 5 年 9 月 2 9 日（金）午後 6 時～午後 7 時
地 区	藤が尾地区
場 所	藤が尾会館
参加人数	2 9 人

テーマ1 高齢化に伴う地域活性化について

主 旨（区長）

- 地震災害の発生時に本人確認を行うため、65 歳以上の名簿を毎年 10 月に更新している。日本は 10 人に 1 人が 60 歳以上と報告されており、本市でも 2 万人以上が高齢者である。どうすれば地域の活性化が図れるのか、どのような生活をしていったらいいのか、皆さんのご意見、市長のご意見を伺いたい。
- 交野市に行く京阪バスは、どうして河内磐船を通らず人の少ないところを通っているのか。河内磐船に行くにはタクシーを使うことになり、お金もかかり予約も 1 週間前にしないと取れない。
- 京阪バスの経路は京阪が決めるのか。京阪を中心にして市長がその意見を聞き作られたのかと思う。贅沢は言わないが、少し便利にできないか。河内磐船や河内森に行くのは難しいのか。
- 市の手続きの多くはゆうゆうセンターに行くことになる。お金をもらってもバスがないと行くことが出来ない。
- 交野市の中で大きな京阪バスが通れる道はそんなにない。山口県萩市は小さなバスがあった。京阪に 2,000 万円補助をするならば、市で小さなバスを走らせて、100 円や 200 円現金で支払うというやり方を考えてはどうか。行政としても市に適した交通ルールはどういうものか、例えば、ゆうゆうセンターにバスセンターを設け、車を市で用意し、京阪の社員に運転をお願いするのはどうか。

市 長

- この地区については、おおよそ 50 年前に大阪府が整備したものであり、府営住宅、テラスの住宅、公社の住宅がある。市として、今後もこの地区で皆さんが住み続けることができるための施策をとりたいと思っている。
- 住宅等、特に府営住宅は老朽化している。市は市営住宅も持っているがとても古く住んでいる人もおられず売却の方向で進めている。一方、府営の住宅については、築年数の関係で梅が枝が先になるが、今住んでいる方にご協力いただきながら、戸数を減らして建て替えが検討されており、市への譲渡も含めて大阪府と協議している。結果として、新しく来られる方もおられるため、この地域の活性化に繋がるものと考えている。
- 交通の利便性については、J R の線には近いものの、星田駅と河内磐船駅にはそれなりの距離がある。過去、ゆうゆうバスが通っていたが廃止され、一時、ほぼ星田駅に行かない路線になったが、星田駅に行けるように変更された。南星台、妙見坂、妙見東の皆さんからの要望があり、星田駅に京阪バスが通るようにしてもらったが、河内磐船に行けないとのご意見をいただき、市としての認

識が不足していたと思っている。

- 京阪バスに年間 2,000 万円の補助金を出しており、令和 6 年度までは今の路線が維持されるが、それらの路線を今後どうするのかという協議をしているところである。バスが通っていない地域については市として何かを走らせる、今通っている路線についても応分の負担をして拡充していきたい。
- 公共交通の利用促進については、今年度から補助を年間 4,600 円に拡充し、次年度からは 70 歳以降を対象とするとともに、タクシーも利用可能としたい。免許返納者には、その時点で交通費の補助が受けられるよう制度変更を行いたい。特に、公共交通については市民の方の関心が強く、お金を使っていきたいと考えている。
- 健康・福祉の分野では、国民健康保険の加入者は、がん検診を無料で受けられるように制度の変更を行った。加入されていない方にはワンコインでがん健診を受けられるように変更した。市として限られた財源ではあるが、知恵を絞ってお金を稼ぎ市民の皆さんに還元していきたい。
- この地域は大阪府が安定的な整備をしているため、地域全体としては比較的安全な地域であると思っている。避難所は藤が尾小学校であるが、順番としては 4 中が先になるが、体育館にエアコンの設置を進めていく予定。より地域の皆さんが利用しやすい施設の整備を目指していきたい。乙辺浄化センターについては建て替えを行うとともに、道の駅としての整備の予定をしており、地区にメリットのある整備を目指したい。
- バス路線については、フレンドタウンのところをまわって旋回できる構造になっていないため、そのまま交野市駅に行くルートしか取れない。1 時間に 1 本のバスであり、その時間内でまわり切れるようにする必要があるので経路を長くするのは難しい。
- 市との協議はあるが最終的に路線を決定するのは京阪である。昨年 10 月の改正時には、妙見東、妙見坂、南星台地区からフレンドタウンと星田駅に停めてほしいという強い要望があった。アンダーパスがないという状況で、これらの要望を満たすにはこの経路しかなかったという状況。ただ、あくまでもこの時点での話であるため、今後どうなるかについては分からない。
- ゆうゆうバスは前市長の判断で廃止している。市としては、東倉治や森南など、もともとバスが通っていなかったところにバス停を設けて停めており、梅が枝、松塚、郡津、幾野にもバス停を設けてワゴン車を走らせる予定となっている。藤が尾地区は、まだバスが通っているため京阪と話をしながらの対応になる。難しいのは、皆さんのご意見と、妙見東、妙見坂、南星台との意見が対立しており、星田の他の 6 地区はアンダーパスを通してほしいと言っている。最終判断は京阪であるため、その状況についてはご理解いただきたい。
- ゆうゆうセンターに行けなくなった理由は、アンダーパスの建設が出来ていないためである。市で通す道路ではないため対応に苦慮している。
- バスの運用には年間 2,000 万円の費用がかかる。うち、ほとんどが人件費で、車両の大きさによって運行費があまり変わるものではない。交野市内ではほぼバスに乗っていないのでお金をとって採算が取れない。交野の路線は大赤字で民間では成り立たない状況になっており、京阪からはお金を出して欲しいとの要望がありワゴン車を走らせることとなっている。ただし、星田エリアで小さいワゴン車を走らせると積み残しの問題が出てくるため、ある程度中型、大型を通さざるを得ない。

- 市が何らかのバスを走らせてお金を取るのは違法であり、地域公共交通会議を開き話し合いをしなければお金は取れない。国道交通省からは、バス事業のあるところで他のバスを走らせてはいけないとあり、この地区は1時間に1本両方向にバスが走っているため別のバスを走らせるというのは不可能である。本来であれば、フレンドタウン、星田、河内磐船を通る路線ができているはずであったが、道が通っておらずできていない。工事して道を通すには皆さんの同意が難しい状況で、対応に苦慮していることをご理解いただきたい。
- フレンドタウンのアンダーパスが通るようになれば、河内磐船には行けるようになる。河内森については構造上難しい。

その他 意見

- 住宅街の公衆電話が撤去された。公園の方は壊れているが何とかならないか。
→〔市長〕NTTとの話になるが市からも話をしたい。
- 交野市営のバスを走らせてほしい
→〔市長〕現状、運転手の職種の職員はいない。市がバス路線を走らせる、もしくは、お金を払ってタクシー会社等に運転手を雇って走らせる、この2つの方法はある。ただし、京阪のバス路線のあるところはかなり難しく、お金を取るのは地域公共交通会議を通さなければならぬためほぼ不可能。職員は一旦雇用すると40年は雇用しなければならず、安定していない状況で人を雇うのは難しい。河内長野市ではバスが撤退という話も出ているが、交野市はそうならないように補助金も出しており、一つひとつ協議をしながら進めている。梅が枝、松塚、郡津、幾野を通るルートにはタクシー会社に運行を委託する。
- 公園の線路側に階段があるが、自転車が通れるように整備してほしい。
→〔市長〕担当に伝えてほしい
→〔区長〕藤が尾区から緑地公園課と道路河川課に要請する
- 非常用のスピーカーがあるが、家の中では聞こえない。外にいても風向きによっては聞こえない。市役所に電話で聞くと電話代がかかる。無料で聞ける方法もあると聞いたが周知されていない。
→〔市長〕防災無線はFAX, HPでも見ることが出来る。いろいろご意見も頂いているので、次年度、改めて業者を選定し直す予定。
- いちょうの木が伸びているがなんとかならないか
→〔区長〕木については本当に難しい。最近、河内磐船駅の大きな木を切ったが賛否両論である。できれば地区の皆さんで一旦話をさせていただいて、区長さんから要望を頂きたい。
- ゆうゆうバスもなくなり高齢になって足腰が弱ってきているため、なんとかゆうゆうバスに近いものを動かしていただきたい。みんなが健康寿命を延ばすためにも、ゆうゆうセンターでの催しに参加できる方法を考えていただきたい。
- 高齢化が進んでおり、手押し車の方などでも歩きやすいような、高齢者が通りやすい道路を考えていただきたい。